

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第3867050号
(P3867050)

(45) 発行日 平成19年1月10日(2007.1.10)

(24) 登録日 平成18年10月13日(2006.10.13)

(51) Int. Cl.	F I
AO1K 27/00 (2006.01)	AO1K 27/00 A
	AO1K 27/00 Z

請求項の数 1 (全 5 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2003-14075 (P2003-14075)</p> <p>(22) 出願日 平成15年1月22日 (2003.1.22)</p> <p>(65) 公開番号 特開2004-222587 (P2004-222587A)</p> <p>(43) 公開日 平成16年8月12日 (2004.8.12)</p> <p>審査請求日 平成16年4月14日 (2004.4.14)</p> <p>特許権者において、権利譲渡・実施許諾の用意がある。</p>	<p>(73) 特許権者 391049356 井川 茂弘 京都府京都市左京区松ヶ崎正田町4番地の18</p> <p>(72) 発明者 井川 茂弘 京都府京都市左京区松ヶ崎正田町4番地の18</p> <p>審査官 郡山 順</p> <p>(56) 参考文献 特開平11-169009 (JP, A) 登録実用新案第3016934 (JP, U) 米国特許第05775970 (US, A)</p> <p style="text-align: right;">最終頁に続く</p>
---	--

(54) 【発明の名称】 ペット散歩具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

ペットの首に付ける首輪と、飼い主が手に持つ取っ手と、首輪と取っ手とをつなぐ紐とでなるペット散歩具において、前記首輪には前記紐と首輪連結金具を紐着脱金具を介して連結し、首輪連結金具とスピーカ取り付け金具を介してスピーカが装着され、前記取っ手には音声録音再生装置と同装置を任意のチャンネルを操作する手元スイッチとが装着され、前記紐には、前記スピーカと前記音声録音再生装置とを結線する電線が敷設されてなるペット散歩具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】

本発明は、ペット散歩具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

首輪と紐と取っ手とで構成されたペット散歩具は公知公用である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

ペットを連れて散歩中に、すれ違うペット連れの飼い主と気軽に挨拶を交わしたいものであるが、気軽に言葉が出ないことが多い。

【0004】

10

20

【課題を解決するための手段】

そこで、首輪と、飼い主が手に持つ取っ手と、兩者をつなぐ紐とでなるペット散歩具において、首輪には紐と首輪連結金具を紐着脱金具を介して連結し、首輪連結金具とスピーカ取り付け金具を介してスピーカを、取っ手には音声再生装置とこれを操作する手元スイッチを、紐にはスピーカと音声再生装置とを結線する電線を、それぞれ設けた。

【0005】

【発明の実施の形態】

図1に示すとおり、ペット散歩具の首輪1に対して、一例として首輪連結金具10とスピーカ取り付け金具15を介してスピーカ4を装着し、取っ手2には、再生部6と電源部9とでなる音声再生装置31とこれを任意に操作するための手元スイッチ7を装着し、紐3には再生部とスピーカを結ぶ電線8を敷設し、電線8の一端を再生部6の出力側に、他端はスピーカ端子16に接続する。

10

【0006】

再生部6に予め録音されたメモリーから音声、音楽等の任意のチャンネルを手元スイッチ7によって選択する具体的な方法はいろいろあるが、一例を図3で説明する。手元スイッチ7を取っ手2の握り面に対して垂直に押し離すと音声などの再生が始まり、再度押し離せば停止し、もう一度押し離せば同じチャンネルの再生がもう一度最初から始まる。また、手元スイッチ7を取っ手2の握り面に平行に前へ押し、押すたびにチャンネルが所定の順序で切り替わり、同じく平行に後ろへ引くと、引くたびに逆の順序で切り替わる。

20

【0007】

ペットの散歩者は、上記のように手元スイッチ7を適宜操作することによって、行き交うペットや人に対して、「お早うございます」、「今晚は」などと、ペットの首輪部分のスピーカから、まるでペットがしゃべっているかのように面白く、しかも口の重い人でも気軽に挨拶することができる。

【0008】

再生部6をワンチップICメモリーに置き換え、必要最小限度のチャンネルと少数言葉に限定し、再生することにより、スイッチの操作手数が減少し、チャンネルアクセスが迅速となり、タイミングよく音声再生ができる。小型軽量化も図れる。

【0009】

前項(0008)とは逆に再生部6には録音部を備えることにより既録音のほかに臨機応変な音声を即時に録音、再生することができる。

30

【0010】

【実施例1】

図2は、本発明散歩具の1実施例の全体図であり通常の犬の散歩状況図である。犬の飼い主は他の散歩犬と飼い主に会った時、取っ手の手元スイッチ7を押し録音されているチャンネルから「こんにちは」等の挨拶言葉を再生させると相手方は「おやっ」と思い、にこにこしながらきつとオウム返しで「こんにちは」と言うのが普通である。そこで続けざまに手元スイッチ7を握り面に対して前に押すか又は後ろに引くことにより、他のチャンネルに録音されている別の受け言葉等を再生させる。押す回数により所定のチャンネル選択再生ができ挨拶を継続することができる。再生途中でも手元スイッチ7を垂直に時間的に短めに押せば、そのチャンネルを初めから再生し、再生終了後自動停止する。

40

【0011】

図5に示すとおりマイクロホン18を介し録音部で録音することにより人間の音声以外に音楽、動物とか鳥の鳴き声も録音可能であり使用方法は多様になる。

【0012】

【実施例2】

図6に示す様にスピーカ4を首輪1と紐3に対して着脱可能な紐着脱金具11の一端の紐連絡金具12に取り付けることにより、スピーカ線のコネクタ29が不要になる。紐とスピーカが一体となり、首輪系と紐系との着脱が簡単容易である。首輪以外に小型ペット

50

の胴体ベルトにも適応できる。

【0013】

【実施例3】

図7は球状形、図8は円錐形の何れもペンダント風のカバーの中に挿入してなるスピーカで、ペットの装飾首飾りを兼ねたスピーカである。その他、平面形、丸形、長方形、三角形、ハート形等面白い。

【0014】

【発明の効果】

ペットの散歩中に行き交うペットや人に対して、人間の挨拶言葉やペットの友好的な鳴き声等を、いかにもペットがしゃべっているように発生させることによって、なごやかな雰囲気を作ることができ、ペットの散歩が一層楽しくなる。 10

【図面の簡単な説明】

【図1】ペット散歩具の全体を示した説明図である。

【図2】ペット散歩具の実施方法を示した説明図である。(実施例1)

【図3】ペット散歩具の操作スイッチを示した説明図である。

【図4】ペット散歩具ワンチップICメモリー簡易音声再生のブロック図である。

【図5】ペット散歩具のマイクロホンと録音再生部を備えたブロック図である。

【図6】ペット散歩具の紐の首輪側にスピーカを取り付けた説明図である。(実施例2)

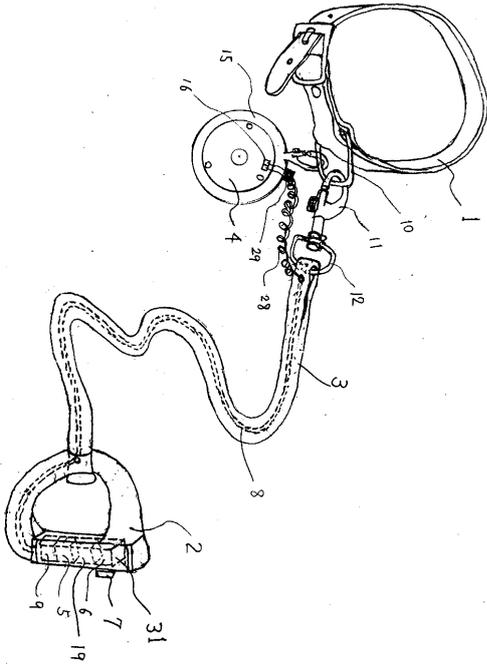
【図7】ペット散歩具の実施方法を示した説明図である。(実施例3)

【図8】ペット散歩具の実施方法を示した説明図である。(実施例3) 20

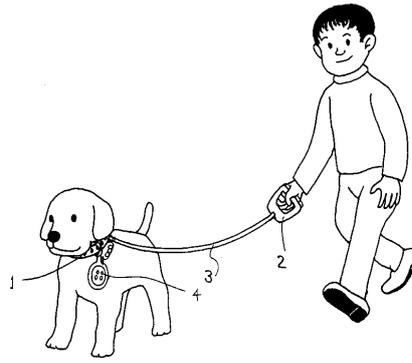
【符号の説明】

- | | | |
|----|--------------|--------|
| 1 | 首輪 | |
| 2 | 取っ手 | |
| 3 | 紐 | |
| 4 | スピーカ | |
| 5 | メモリー部 | |
| 6 | 再生部 | |
| 7 | 手元スイッチ | |
| 8 | 電線 | |
| 9 | 電源部 | 30 |
| 10 | 首輪連結金具 | |
| 11 | 紐着脱金具 | |
| 12 | 紐連結金具 | |
| 16 | スピーカ端子 | |
| 18 | マイクロホン | |
| 19 | 録音部 | |
| 20 | 録音再生部 | 28 |
| | | むき出し電線 |
| 29 | スピーカコネクタ | |
| 31 | 音声再生装置 | |
| 41 | 球状形ペンダントスピーカ | 40 |
| 42 | 円錐形ペンダントスピーカ | |

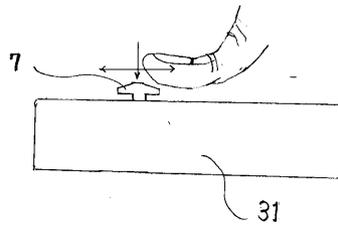
【 図 1 】



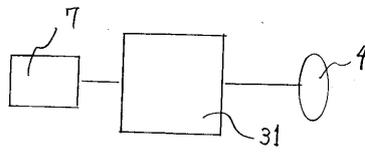
【 図 2 】



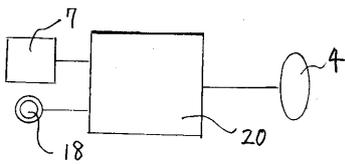
【 図 3 】



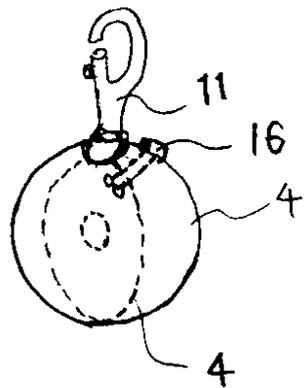
【 図 4 】



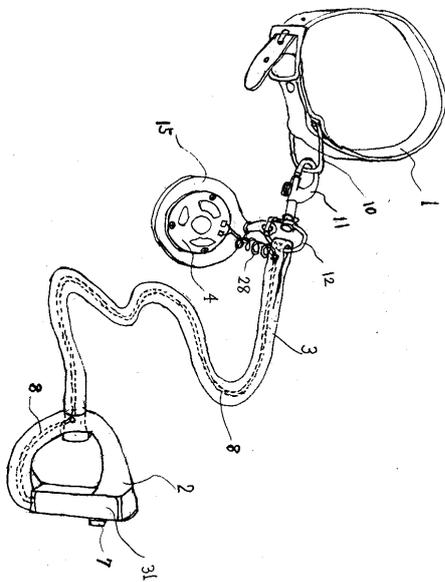
【 図 5 】



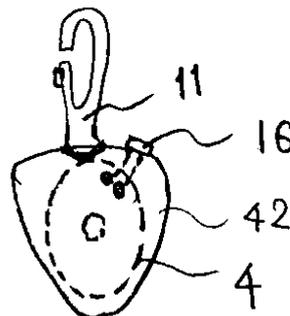
【 図 7 】



【 図 6 】



【 図 8 】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B名)

A01K 27/00